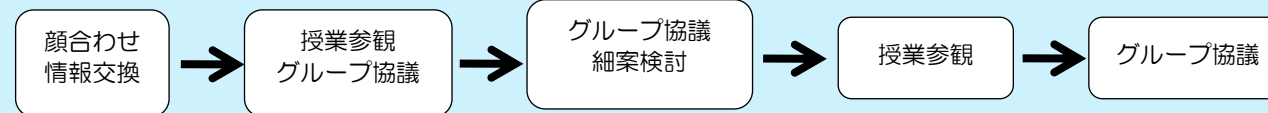


令和元年度の主な取組

11月4月
6月
7月
11月7月
8月
12月

授業研究グループ会

全教員が、体育、音楽、美術、生活単元学習、総合的な学習の時間、自立活動の各教科等のグループに分かれ、1年間を通して、情報交換や授業参観、ワークシートに沿ってのグループ協議を行いました。



障害特性に関する研修会（知的障害の特性について学ぶ）

講師：広島県立呉特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 教諭 岡田 朋代
実践事例を通して児童生徒のニーズに応じた学習指導についての理解を深め、指導力及び専門性を高めました。

サテライト講座（主体的な学びを促す研修会）

講師：広島県立教育センター特別支援教育・教育相談部 指導主事 室井 菜穂子 氏
学習評価の充実や評価方法、評価規準、評価基準とは何か等、ルーブリック評価に取り組んでいくために必要な基礎知識を学習しました。

一人一回細案授業

全教員が、ルーブリック評価表を取り入れた学習指導案を作成し、授業及び事後協議を行いました。

障害特性に関する研修会（重複障害の特性と支援について学ぶ）

講師：広島大学大学院教育学研究科特別支援教育学講座講師 船橋 篤彦 氏
肢体不自由の特性や、自立活動についての理解を深め、指導力及び専門性を高めました。

公開授業研究会

講演「自ら学びたくなるためには、どんな環境が必要なのか？」

講師：香川大学 教育学部 教授 坂井 聡 氏
公開授業や教材教具及びポスターの展示、令和元年度研究成果報告を行いました。また、坂井先生を招聘して、正に本校の研究テーマに迫る講演をしていただきました。実際の授業を想定して、児童生徒にわかるように伝えられているのか、目の前の児童生徒の対応についてを考えさせられました。10年後この子がどんな生活をしていると良いか？どんな支援が必要なのか？具体的にイメージすることの必要性を改めて学ぶことができました。

広島県特別支援学校教育研究大会

ポスター発表で本校の研究についての取組や成果を紹介しました。

本校の教育研究は、公益財団法人広島県教育振興会より、教育研究・育成活動の助成を受けて推進しました。

令和元年度 広島県立呉特別支援学校

研究紀要

研究テーマ

児童生徒が、自ら考え、学びたくなる授業づくり（三年次）

～児童生徒一人一人の学習評価を通して～

研究仮説

児童生徒一人一人の「主体的に学習に取り組む態度」に関する目標について、ルーブリック評価を作成し、学習評価を行うことで、児童生徒が「学びたくなる授業」となり、「自ら考え」る姿が引き出されるであろう。



目的を持って

夢中になって

考え、気づき、表現する

目指す子供の姿

小学部

・夢中になって取り組む子供

中学部

・考え、気づき、表現する子供

高等部

・目的を持って行動する子供



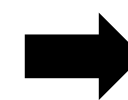
研究仮説

主体的に学習に取り組む態度

児童生徒一人一人のルーブリック評価表

「学びたくなる」授業

「自ら考える」姿



令和元年度の研究計画のポイント



① 「主体的に学習に取り組む態度」に焦点を当てた目標設定



② 学習指導案 新様式



③ 授業研究グループ



〒737-0911
広島県呉市焼山北三丁目22番1号
TEL (0823)33-0300
FAX (0823)33-0308

児童生徒一人一人の学習評価を用いた授業実践

小学部

- ◆第5学年1組 単一障害学級
- ◆教科等名 音楽科
- ◆単元名「冬の歌とリズム」
- ◆単元目標「冬に関する曲の歌唱や身体表現を通して、表現活動に取り組むことができる。手遊び・リズム遊びで身体を意識したり期待感をもちたりすることができる。指導者や友達を意識して模倣遊びをする。」



授業後のグループ協議での意見

- ・「たたこうとする。」の評価が難しい。見ていて評価しやすい目標を設定する必要があるのではないか。
- ・本時の目標について、活動直後に振り返りをしていたのがよかった。

児童の評価基準

児童名	目標（主体的に学習に取り組む態度）	
A	◎	指導者の手本を聴き取り、音楽に合わせて「タンタンウン」などのリズムをたたこうとすることができる。
	○	「タンタンウン」などの言葉を聞きながら、音楽に合わせてリズムをたたこうとすることができる。
	△	「タンタンウン」などのリズムの一部をたたこうとすることができる。
B	◎	指導者の手本を聴き取り、音楽に合わせて「タンタンウン」などのリズムを強弱をつけてたたこうとすることができる。
	○	指導者の手本を聴き取り、音楽に合わせて「タンタンウン」などのリズムをたたこうとすることができる。
	△	「タンタンウン」などの言葉を聞きながら、音楽に合わせてリズムをたたこうとすることができる。

中学部

- ◆第3学年1組 単一障害学級
- ◆教科等名 音楽科
- ◆単元名「音を工夫して表現しよう①」
- ◆単元目標「音の流れを味わい、工夫して楽器や身体で表現することができる。」



授業後のグループ協議での意見

- 生徒が主体的に、階名シールを選び楽譜に貼り、その楽譜を見ながら演奏する姿が見られた。
- 個々の実態に合ったループリックの設定や評価ができていた。

生徒の評価基準

生徒名	目標（主体的に学習に取り組む態度）	
A	◎	楽譜に階名シールを自ら選んで貼り、音を出して確認しながらメロディを作り、笑顔で演奏することができる。
	○	楽譜に階名シールを自ら選んで貼り、音を出して確認しながらメロディを作り、演奏することができる。
	△	楽譜に階名シールを促されて貼り、メロディを作って演奏することができる。
B	◎	3つのペットホンを聞き比べて音を選び、指示に合わせて鳴らした後、笑顔を見せる。
	○	3つのペットホンを聞き比べて音を選び、指示に合わせて鳴らすことができる。
	△	ペットホンを取り、自分のペースで鳴らすことができる。

高等部

- ◆第1学年1組 単一障害学級Ⅱ類型
- ◆教科等名 生活単元学習
- ◆単元名 「商品の選択と購入」（買い物学習含む）
- ◆単元目標「家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方を理解することができる。金銭や時計・暦などの正しい使い方が分かることができる。」



授業後のグループ協議での意見

- ・教員も店員役になって困ったら助けを求める設定でも面白いのではないか。
- ・自分で評価をする時に、表情カードで選ばせ、個々の実態に合わせた評価ができていた。

生徒の評価基準

生徒名	目標（主体的に学習に取り組む態度）	
A	◎	自分で値段を確認し、電卓を使って合計金額、お釣り等を計算し、予算内で買い物することができる。
	○	値段を確認し、電卓を使って、予算内で買い物することができる。
	△	指導者と一緒に買い物することができる。
B	◎	自分が選んだカードと同じ商品を選び、レジでお金の受け渡しができる。
	○	自分が買いたい商品を選ぶことができる。
	△	指導者と一緒に確認しながら、カードと同じ商品を選ぶことができる。自分が買いたい商品を選ぶことができる。

研究成果

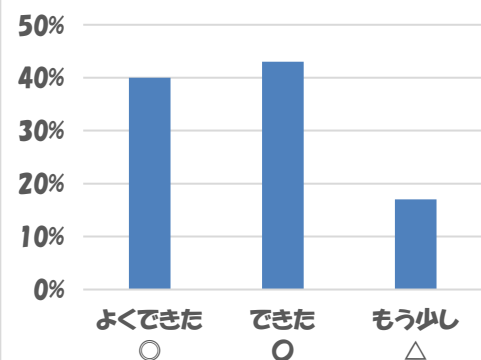
研究・検証方法

授業毎に作成する指導略案に、授業者が児童生徒の学習評価について自己評価を行う欄を設ける。

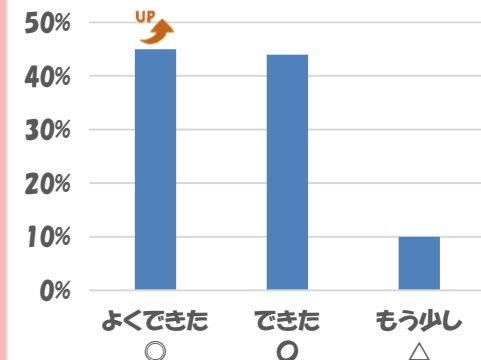
評価基準

- ◆主体的に学習に取り組む態度について
 - ◎ よくできた
 - できた
 - △ もう少し

第1回(5月)



第3回(11月)



5月に行った集計では、授業者による児童生徒の学習評価は「よくできた」と評価した教員の割合は40%でありましたが、11月に行った集計では、その割合は45%となり、上昇しています。「もう少し」の割合は、5月17%、11月10%という結果からも、授業後の児童生徒の姿をイメージしながら目標設定が具体的にできるようになったと考えられます。